

かほだより

乳牛の大敵、暑い夏。 地球激変化の時代を乗り切ろう!!



2月の歴史的大雪など厳しい寒さの冬も終わり、あっという間に桜の時期も過ぎ、もうすぐそこに夏を迎えようとしています。地球温暖化ならぬ激変化は、私たちの生活や乳牛を飼養する環境を脅かしています。

今年の夏も猛暑が予想され、乳牛にとって一番厳しい季節となります。乳牛の健康管理、暑熱対策に留意し、乳量の低下等の影響を防止し、暑い夏を乗り切りましょう。

牛の暑熱サイン(よく観察して下さい)

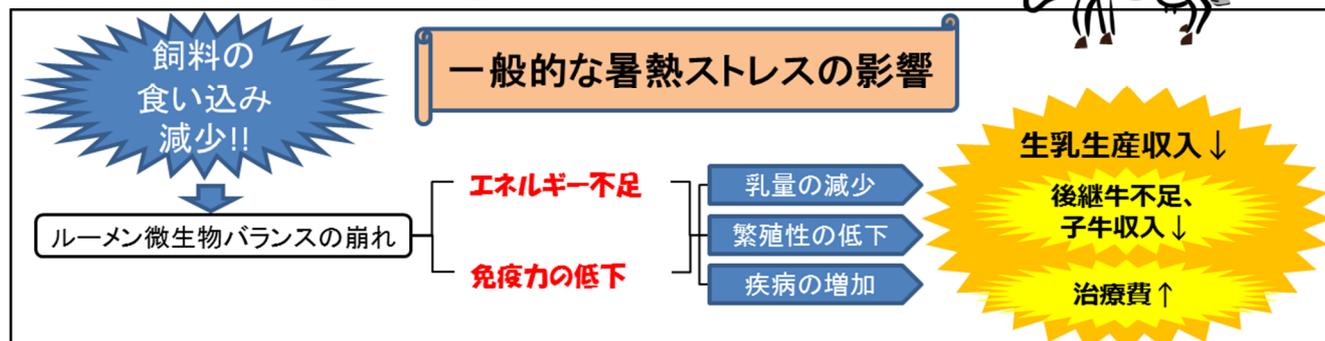
- ① 選 び 食 い：熱を発生しやすい粗飼料を嫌い、配合飼料を選んで食べます。
- ② 便 の 状 態：糞中に排泄される未消化の穀物(トウモロコシの子実等)や粗い繊維が目立つようになります。
- ③ 呼 吸 数：80回くらいまで増加し、開口呼吸をするようになります。
(夏期以外は通常 15~35 回/分、夏期は 50~60 回/分)
- ④ 体 温 上 昇：直腸温度が39℃以上になります。(通常は 38℃~39℃)
- ⑤ 横 臥 時 間：ゆったり横になっている牛は減少し、起立牛が増加します。

1. 暑熱ストレスの影響

乳牛は体の中にルーメン(第一胃)という大きな発酵タンクを持っています。この発酵タンクの中では、数々の微生物により牛が食べた餌が分解されるため、常に 500ワットの電気コタツに相当する熱エネルギーを産出しています。

このため乳牛は夏が大の苦手です、暑さによる飼料の食い込みの減少により、生乳の生産、繁殖等に大きな影響を及ぼします。

中でも、暑熱による繁殖性の低下は大きな問題で、乳牛の分娩間隔延伸の要因の一つとなっています。



6月1日は牛乳の日

子供も大人も熱中症予防に牛乳を飲みましょう!

2. 夏でも食べさせる方法は？

ポイント1 牛体に風があたっていますか。

トンネル換気、細霧システム、ダクトファン等を取り入れ、確実に風が牛に当たるようにしましょう（図1）。

ポイント2 良質乾草を給与しましょう。

食欲が落ちるこの時期、とくに分娩前後1週間の大事な時期を迎えた牛に、お手持ちのなかで一番良質な草を与えてください。

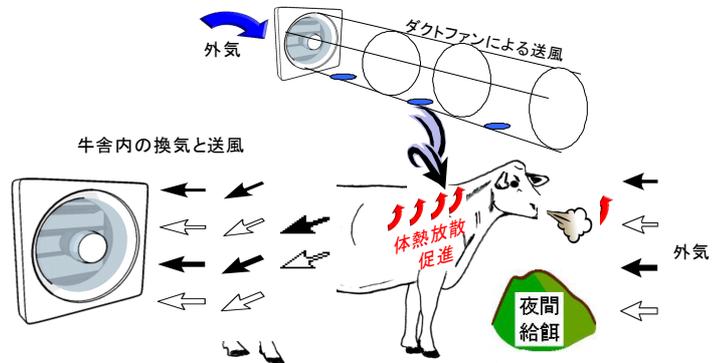
また、朝夕の気温が下がる長野県の気候条件を十分に生かし、夜間に給餌する手もあります。

ポイント3 飲み水に注意してください。

きれいな冷たい飲み水を常に飲めるようにしましょう。夏の飲水量は増加し1頭1日100ℓ以上にも及びます。

ポイント4 舎内環境を改善しましょう。

屋根への散水や石灰塗布、遮光のため「よしず」や「グリーンカーテン」も舎内温度を下げるために効果的です。また、毛刈りも体表面温度を下げるために有効です。また、風通しを良くするため、舎内の整理・整頓、畜舎周辺の除草等もわすれずに。



(平成23年 長野県畜産試験場)
図1 タイストール乳牛舎における暑熱対策システム

3. 決め手は栄養管理です

乳牛は、代謝ストレス、環境ストレス等種々のストレスを抱えており、これに暑熱ストレスが加わることにより、自身の生命を維持するために、乳量の減少、繁殖性の低下等の生産性の低下が実害として現れてきます。

乳量の減少、熱射病による死亡等は目に見える実害ですが、目に見えず大きな損失を及ぼしているのが繁殖性の低下です。

夏場はエネルギー不足から卵巣機能が低下し、発情がはっきりしない、発情持続時間が短い等、授精の妨げとなる様な状態になりやすく、また、授精を実施しても着床に至らない等の悪影響により、妊娠率が低下し、分娩間隔延伸等により多大な損害を及ぼします。

これらを回避するためには、何と云っても生命維持と生産に必要な栄養を確保させるための飼養管理が不可欠です。

暑熱への対策を確実にいき、十分に良質乾草を食い込ませ、乳量の減少を防止するとともに、妊娠させるべき牛は必ず妊娠させ、夏場の経済損失の防止をお願いします。



6～8月は暑熱による損耗防止月間です。

暑い夏への対応はもう始まっています！！

暑熱対策標語：暑い夏 風浴び草食べ 乗り切ろう

